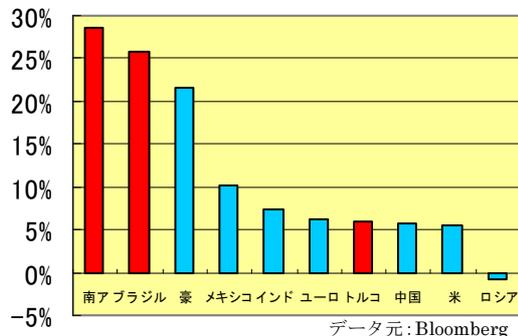




## 直近の動向

6月前半は良好な米経済指標等を受け、早期景気回復期待からリスクに対する警戒感が後退、リスク資産に投資資金が流入した結果、新興国市場では株式、通貨ともに堅調に推移した。中旬にかけては期末を前に海外投資家の利食い売り圧力が強まり、欧米株式市場や商品価格が下落、連れる形で新興国市場の株式や通貨も下落した。しかし、売り圧力巡後は月末にかけて新規資金が再び流入、さらに各中央銀行が金融政策を中立バイアスに向け始めたことなどを好感して、株式、通貨とも値を戻した。通貨では南ア・ランド、ブラジルレアルは年初から25%以上の上昇、ロシアはまたマイナスから回復出来ず。

先月までのエマージング通貨の  
年初来対円騰落率



## 店舗案内

本社：  
東京都中央区新川  
1-21-2

茅場町タワー  
TEL: 03-5541-7887

京都支店：  
京都府京都市中京区烏丸通  
錦小路上手洗水町 659  
烏丸中央ビル 6F  
TEL: 075-222-1001

大阪支店：  
大阪府大阪市中央区南船場  
1-18-17  
商工中金船場ビル 13F  
TEL: 06-4705-6701

名古屋支店：  
愛知県名古屋市中村区名駅  
3-22-8  
大東海ビル 4F  
TEL: 052-564-0051

札幌支店：  
北海道札幌市中央区北一条西  
2-1  
札幌時計台ビル 10F  
TEL: 011-221-1375

## ブラジル



10日に政策金利を1%引き下げ9.25%とした。第1四半期の実質GDP成長率は前期比-0.8%と前期よりマイナス幅が縮小。雇用が拡大傾向にあり、内需も堅調、外資の流入が増加している。また、IMF債購入やBRICS首脳会議など国際的な存在感を増している。通貨は一時急落するも反発、6月末時点では5月末比+2.08%。

## トルコ

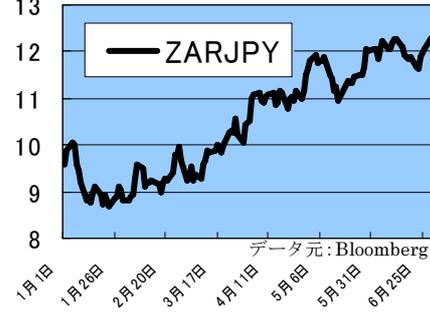
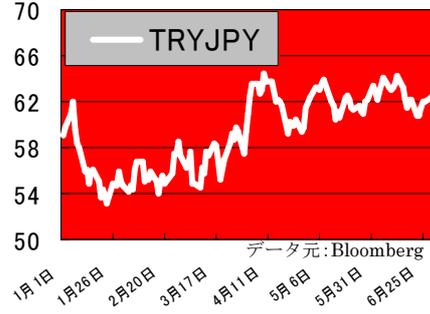
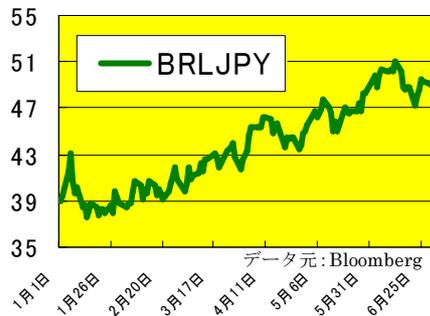


16日に政策金利を8.75%に引き下げた。第1四半期実質GDP成長率が前年同期比-13.8%と過去最大の落ち込み。国内株式市場は堅調に推移し、4~6月で45.45%の上昇。原油価格上昇もあり、通貨は6月末時点では5月末比+0.68%。欧州経済と輸出産業が景気回復の鍵を握る。

## 南アフリカ



資源の輸出価格上昇による景気回復期待から通貨が大幅上昇、対米ドルではリーマンショック前の水準を回復している。25日に政策金利を7.5%に据え置き。景気後退の終息の兆候が見られる中、高止まりしているインフレが懸念されている。サッカーの国際的イベントであるコンフェデレーションズ杯を成功させ、W杯開催への期待も膨らむ。



## 為替レート見通し



対円 (JPY)	09/07	09/10	10/01	10/07
米ドル (USD)	97	97	103	105
ブラジルレアル (BRL)	50	53	57	62
トルコリラ (TRY)	63	64	68	72
南ア・ランド (ZAR)	12.5	13	14	15

この資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的とした2009年7月1日現在の当社の意見になります。また、当社が信頼できると考える情報源から得たデータに基づき作成しておりますが、その情報の正確性及び完全性について当社が保証するものではありません。